

# Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.22 No.8 August 2021

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



8

## CONTENTS

- ・巻頭言  
海外布教の中でちばを考える ②  
／永尾 教昭 ..... 1
  - ・日本語教育と海外伝道 (37)  
日本語教育と異文化伝道 ②  
／大内 泰夫 ..... 2
  - ・イスラームから見た世界 (14)  
イスラームにおける「他者への献身」①  
—義務的喜捨(ザカート)—  
／澤井 真 ..... 3
  - ・遺跡からのメッセージ (最終回)  
大和の文化遺産を学ぶ ⑩—歴史と文化がおる  
共生都市・天理  
／桑原 久男 ..... 4
  - ・伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で— (30)  
仏典翻訳の歴史とその変遷 ⑬  
／成田 道広 ..... 5
  - ・音のちから—中国古代の人と音楽 (3)  
悩める為政者  
／中 純子 ..... 6
  - ・コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観  
と教えの伝播— (17)  
5. コロンビアの体質 8  
／清水 直太郎 ..... 7
  - ・天理参考館から (25)  
スポーツの歴史と文化 (4)「球技」その1  
／幡鎌 真理 ..... 8
  - ・ヴァチカン便り (51)  
ヴァチカンを揺るがす LGBT 問題  
／山口 英雄 ..... 9
  - ・思案・試案・私案  
「碑」の字表記問題再考 (14)  
／八木 三郎 ..... 10
  - ・おやさと研究所ニュース ..... 11
- 巡礼に関する国際会議で、オンライン講演／オーストラリア学会 2021 年度全国研究大会で発表／第 340 回研究報告会／2021 年度公開教学講座のご案内

## 巻頭言

### 海外布教の中でちばを考える ②

おやさと研究所長 永尾教昭 Noriaki Nagao

そもそも聖地とは、どういう場所を言うのか。最近は精神的な癒しを求める若い人たちの間で「パワースポット」と称して、霊的な雰囲気のある場所を訪ねることがブームになっている。パワースポットに特に定義はなく、神や仏が祀られている場所はすべてそのようだ。これらも聖地かもしれない。

南仏ルルドは、その洞窟で地元の少女が聖母マリアに出会う。そして、そこから湧き出た泉の水で、多くの病人が治癒するなど奇跡が起こりカトリックの聖地となった。今でも常時多くの巡礼者が訪れる。

エルサレムは、ユダヤ教徒にとれば神との約束の地であり、キリスト教徒にはイエスが磔に処され、3 日後に復活したところである。さらにイスラーム教徒にとれば、ムハンマドが昇天した場所として、それぞれの聖地である。

マッカ(メッカ)は、イスラーム教誕生以前から信仰の中心地であったが、今は多くのムスリムが巡礼に訪れるイスラーム教の聖地である。ムスリムにとって、マッカへの巡礼は生涯に一度は行うべき義務とされる。また世界中どこにいても、毎日 3 回あるいは 5 回はマッカの方を向いて礼拝する。

バチカンは使徒ペテロの殉教の地であり、その墓の上に聖ピエトロ寺院が建立されている。同時に、ここはカトリックの教団本部でもある。高野山は、空海が金剛峯寺を開き真言宗の中心地となっている。その奥の院には空海が今なお生きてるとされ、毎日食事が供されている。

これらの聖地とちばを比較してみると、ちばのように、人間が宿こまれた場所という教理を持っている場所はないように思う。しかし、これは教理であるのでここでは深入りしない。

天理教信者にとって必ずしも義務ではないが、ちばに参拝するのは重要な信仰活動である。1934 (昭和 9) 年には、今後各地の教会の神殿は原則ちばの方向を向いて拜

できるように建設すると決められた<sup>(1)</sup>。その意味では、イスラーム教におけるマッカに近いのではないと思う。

一方、教団の本部が置かれている場所であるということでは、ちばはバチカンと同じ位置づけになる。また教祖は今なお、存命でこの場所に留まり、世界中を守護していると信じられており、今も毎日三度の食事が供されている。その意味では高野山と似ている。そして、どの教団でも本部所在地には、すなわち中心的礼拝施設があるのだから、当然本部が置かれているところはその教団にとって聖地であり、ちばもそうである。

ただ、それら他教の聖地とちばが違うところがある。前号で、ちばと教会本部(以下、本部)は教義上不離一体でなければならないと述べた。天理教の場合、教団の行政上のほぼすべてのこと、例えば教会の設立、教会長の交代、教師資格の取得等々のオーソライズはすべて本部によってなされ、それも単に事務的に本部に書類を提出すれば良いのではなく、当該者や組織の代表者が物理的にちばに足を運ばなければならない。同様に一般信者に下付されるものもほとんど、直接ちばに参拝して頂く。このことについては、次号で見ていきたい。

天理教史の中で 1888 (明治 21) 年 4 月、ちばを離れ東京に本部が置かれている。しかし、その後の「おさしづ」で「世界で所を変えて本部々々と言うて、今上も言うて居れども、あちらにも本部と言うて居れど、何にも分からん。ちばに一つの理があればこそ、世界は治まる。」(M21.7.2) とちばに本部を設置するよう命じられ、7 月には移転している。前年に教祖が現身を隠して後、天理教は教団として組織化され、こうしてちばと本部は一体でなければならないという教理が確立する。

[註]

(1)『天理時報』(1934 年 12 月 9 日号)、天理教道友社。